

中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター
江の川改修発掘調査事務所
TEL:0855-54-0630

梅雨も明け、暑い日が続いていますが、皆様お元気でおすごしでしょうか？

好天のおかげで発掘調査は順調に進んでいます。気温30度を超える中での発掘作業は体力的にも精神的にも大変です。地域の歴史を解明するため、土器などを見つけたときの喜びを味わうため(あるいは仕事から帰っておいしくビールを飲むため?)など人それぞれではありますが、調査員・作業員一丸となってがんばっています。

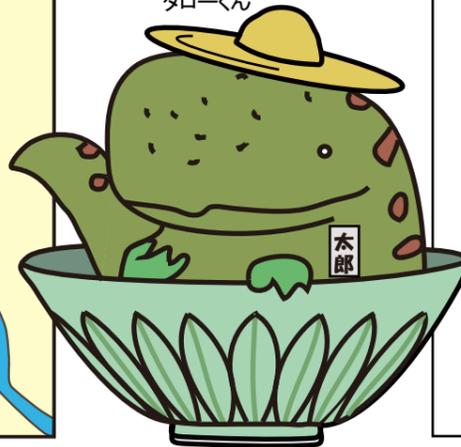
発掘作業は、学校の夏休み期間中も盆休み(8月11日~16日を予定)をのぞいて行っています。見学は随時受け付けておりますので、調査事務所までお気軽にご連絡ください。

安全のためのお願い

発掘現場は、足場の悪いところや、深く掘り下げた場所があり、たいへん危険です。事故防止のため、絶対に無断で立ち入らないようお願いいたします。



江の川発掘調査マスコット
タローくん



田淵(たぶち)遺跡の発掘調査

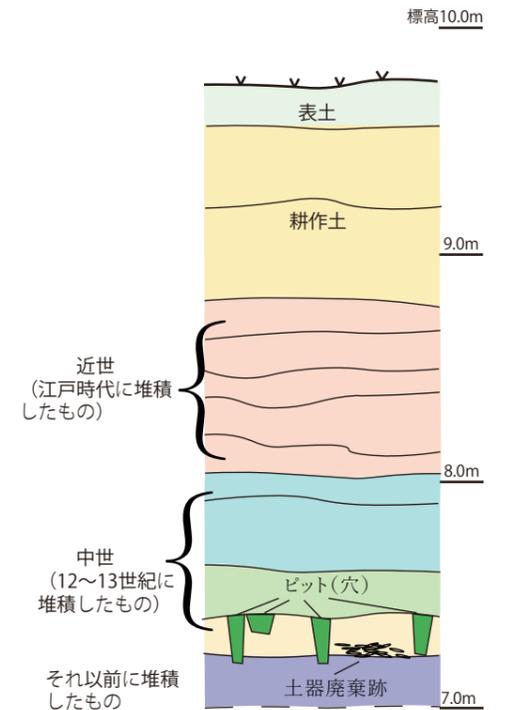
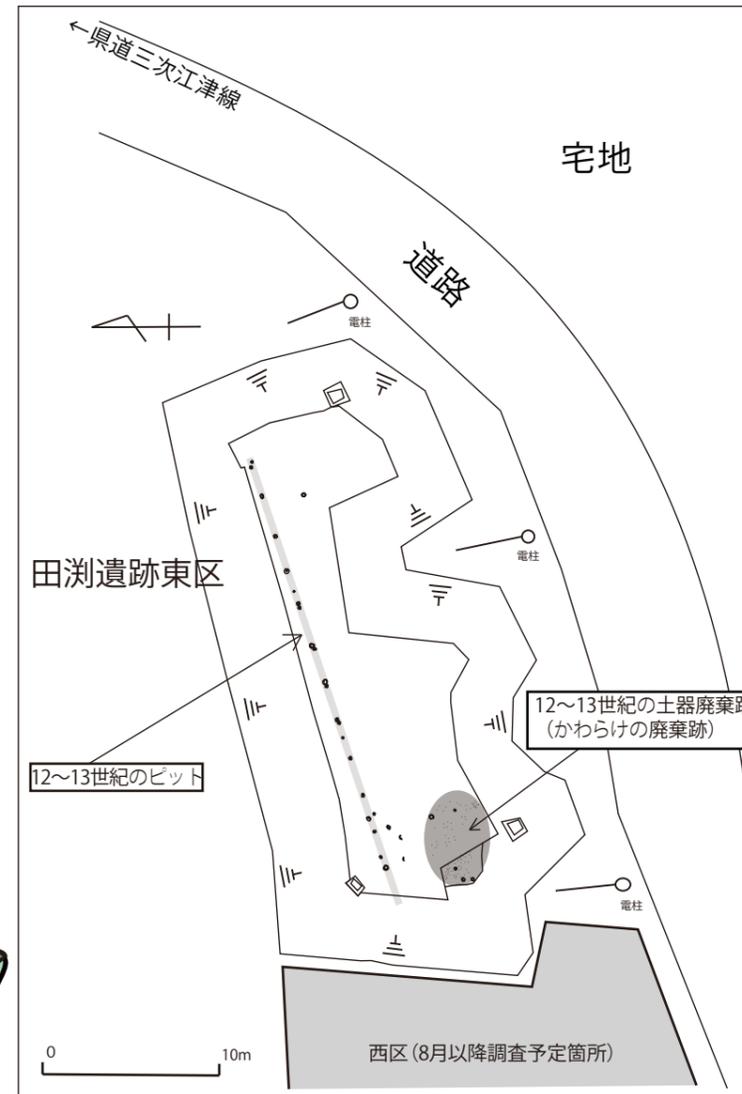
○所在地 江津市川平町南川上

田淵遺跡の調査は、東区と西区に分けて実施しています。7月いっぱい東区の調査は終了し、続いて西区の調査に入る予定です。

東区の調査では、右図のように非常に厚く土砂が堆積していることが分かりました。ご存じの通り、遺跡周辺は江の川が増水すると奥谷川が逆流し、度々洪水被害を受けている場所です。遺跡内の土層にも、冠水した際に流れ込んだと考えられる土砂が、幾重にも積もっていました。

表土下約2mには、中世(12~13世紀頃)の土層があり、大きく3層に分かれます。出土遺物を見ると、さほど時期差がなく、数十年の間に次々積ったようです。これも洪水によるものかもしれません。この時期には東西方向に並んで設けられたピット(穴)が見つかり、柵や塀などが建てられていたようです。建物跡は調査区内では見つかりませんが、土地が高い山側(現在の宅地側)に建てていたのかもしれませんが。

その下の層からは、前回お知らせしたように12~13世紀頃の皿や坏などを廃棄した跡が見つかりました。これらの土器は、まつりなどの宴会で使用した後、まとめて廃棄したもののようなのです。



田淵遺跡土層模式図



*30m以上にわたり一直線に並んで出土したピット群(穴)

ほぼ東西方向に等間隔で並んでおり、西側は調査区外に続いています。(8月以降調査予定です。)木製の柱や杭が立てられていた穴と考えられますが、南北方向に對になる穴がないことから、柵や塀のための杭である可能性が高そうです。
田淵遺跡では、中国から輸入された青磁碗や青白磁の合子などが出土しており、近隣に有力者の屋敷やお寺などが存在した可能性があります。調査区内で建物跡は見つかりませんでした。